

# ら 訪 探 歴 史 クラブ 其の30

TAHARA History Inquiry Club

## 庭先のカメから

写真は、市内のとある家の庭先で見かけた、金魚鉢に利用されているカメです。何の変哲もないカメですが、はじめて見た時はびっくりしました。なぜならこのカメは、江戸時代初め（今から400年前）に作られたものだったからです。赤茶けた色と形から、知多半島の常滑で焼かれたものだとすぐ分かりました。水草とカメの肌の色がなんともいえ、いい雰囲気を出しています。しかし、こんな古いカメが庭先にあるとは驚きです。

常滑のカメというとすぐに思い出

すのは、肥溜めに使われていたカメです。昔、焼の良くない赤茶けた大きなカメが畑の隅に据えられ、その中には糞尿が溜められていました。当時は、この糞尿を畑の肥料にしていたのです。もちろん便槽にも使われていました。いたずら好きの子ども時代に、誤って落ちた苦い経験をお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

さて、このカメのあるお家の方にかつての使われ方を聞いたところ、

雨どいの水受けに使っていたようですが、それ以前は分らないそうです。しかし、このカメは焼きも良く姿も美しいものです。大きさもそれほどではないので、特別なものの貯蔵か水溜に使用されていたかもしれません。カメの口が広いのは、水などの出し入れを容易にするためでしょう。

焼き物のカメは重たいという欠点はありませんが、腐らず、丈夫で、蓋さえきちんと閉じれば、虫や動物の被害もなく、水、種などの貯蔵には最適です。



庭先で見かけたカメ

したがって、農業、醸造、染物などの産業の発展に伴い、平安時代終わりころからその利用は爆発的に増えました。また、産業用に使えばかりでなく、日々の暮らしの中でも貯蔵容器として欠かせないものでした。特に、水の少ない地域では大切な水を溜める容器として重要なものだったでしょう。おそらく、各家庭には、様々なカメがあったことでしょう。



畑の隅の肥溜めに使われていたカメ

石油化学製品など、安価で加工しやすい製品が普及し、これらのカメの出番が少なくなりました。でも、これらの製品がこのカメのように400年も現役でいられるとは思えませんし、代々その家の歴史と共に歩むことはないでしょう。

カメは、この家に来てから生活の大切な道具として使われてきましたが、その役目を終えた今、金魚鉢としてその家に心の安らぎを与える役目を担っています。

モノを大切にすると環境へのやさしさを感じた出来事でした。皆さんも今一度、まわりのモノを見渡し、様々な工夫で現在の生活に生かしてみませんか？（増山）

生涯学習課 ☎ 23局35331